

伊豆半島の地殻変動*

建設省国土地理院

第1図は川奈における精密変歪測量結果である。前回測定(1991年11月)と比べ大きな変化はない。第2図は、熱海～河津間の水準測量結果である。昨年から続いていた伊東市南部を中心とする隆起が、今回は止まっている。第3図は、伊東、初島、真鶴各験潮場の油壺験潮場を基準とした月平均潮位差である。また第4図は、伊東付近各験潮場の日平均潮位差を示したものである。大きな変化はみられない。第5図は、初島－伊東のGPS連続観測及び小室山－宇佐美のEDM連続観測結果である。特に有意な変化はない。

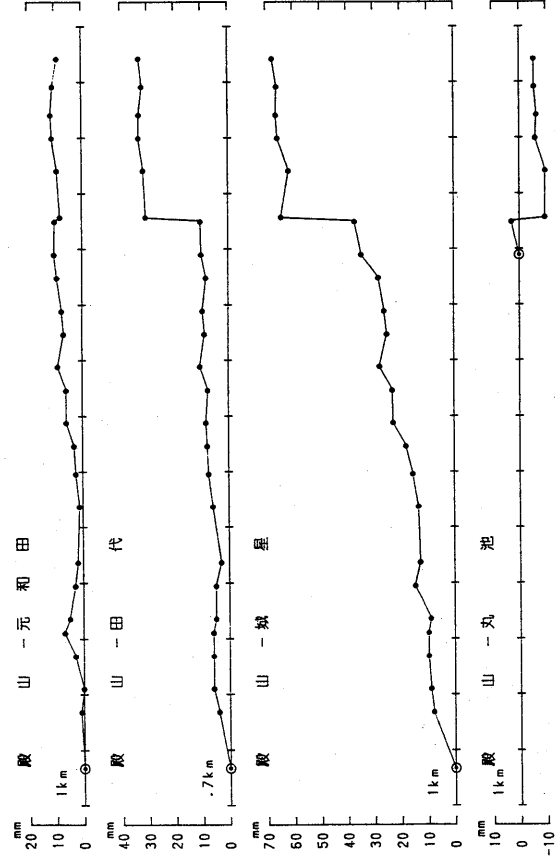
* Received 28 Dec., 1992

水平歪・辺長変化

1992.05~1991.11
元和田

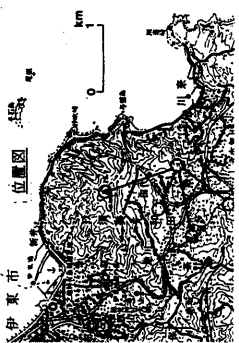
辺長の経年変化

1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992



青訂国流山定和値との上中交

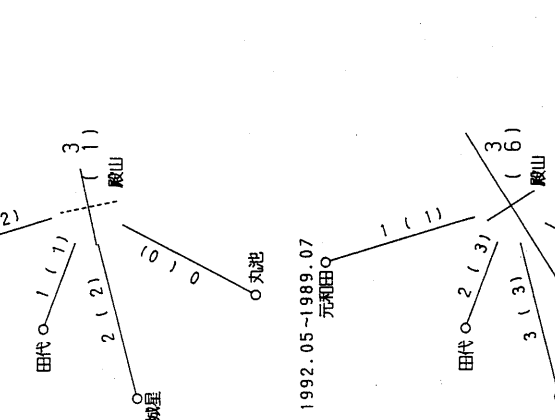
測定区間	今回 1992年5月	前回 1991年11月
殿山~元和田	1005.4870	1005.4886
殿山~田代	667.0730	667.0721
殿山~城星	1005.7697	1005.7661
殿山~丸池	977.9785	977.9763



1992.05~1989.07
元和田

水平歪・辺長変化

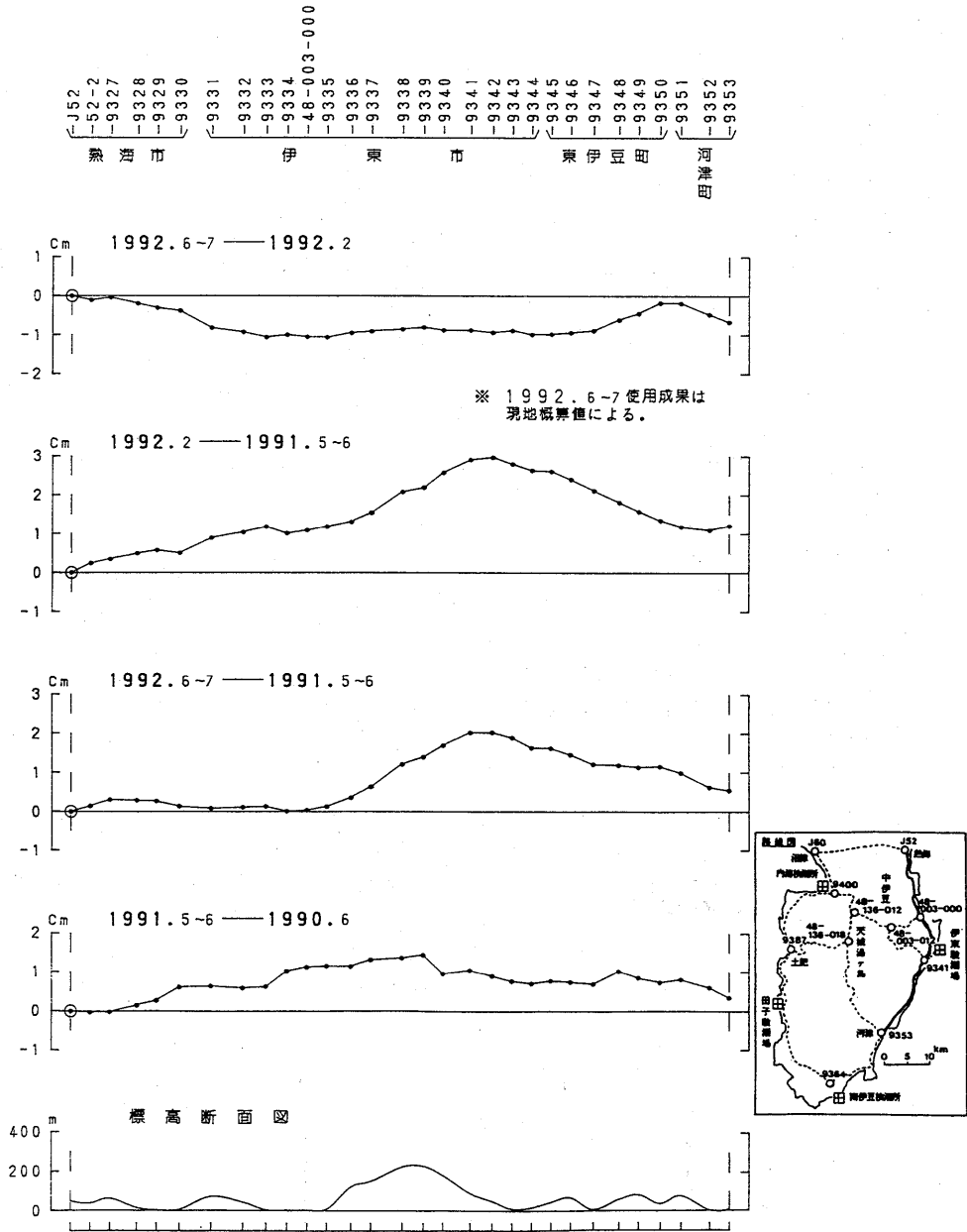
1992.05~1991.11
元和田



単位 mm
() Δs/S 単位 10⁻⁶
1×10⁻⁶ 主線
1×10⁻⁶ 副線
縮尺 最大七九新歪 10⁻⁶
() 面積変化率 10⁻⁶

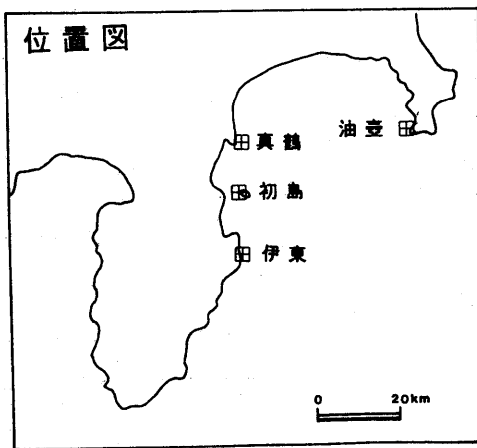
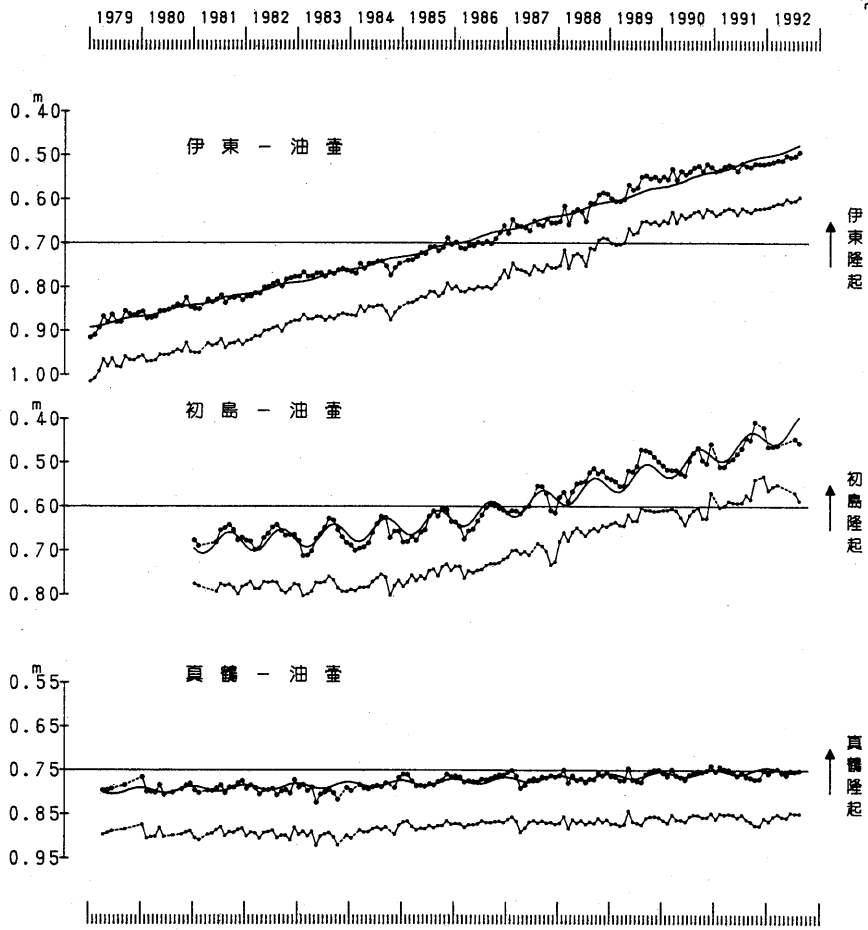
第1図 川奈精密距離測量結果

Fig. 1 Results of precise distance measurements at Kawana radial baseline.



第2図 熱海～河津間の上下変動

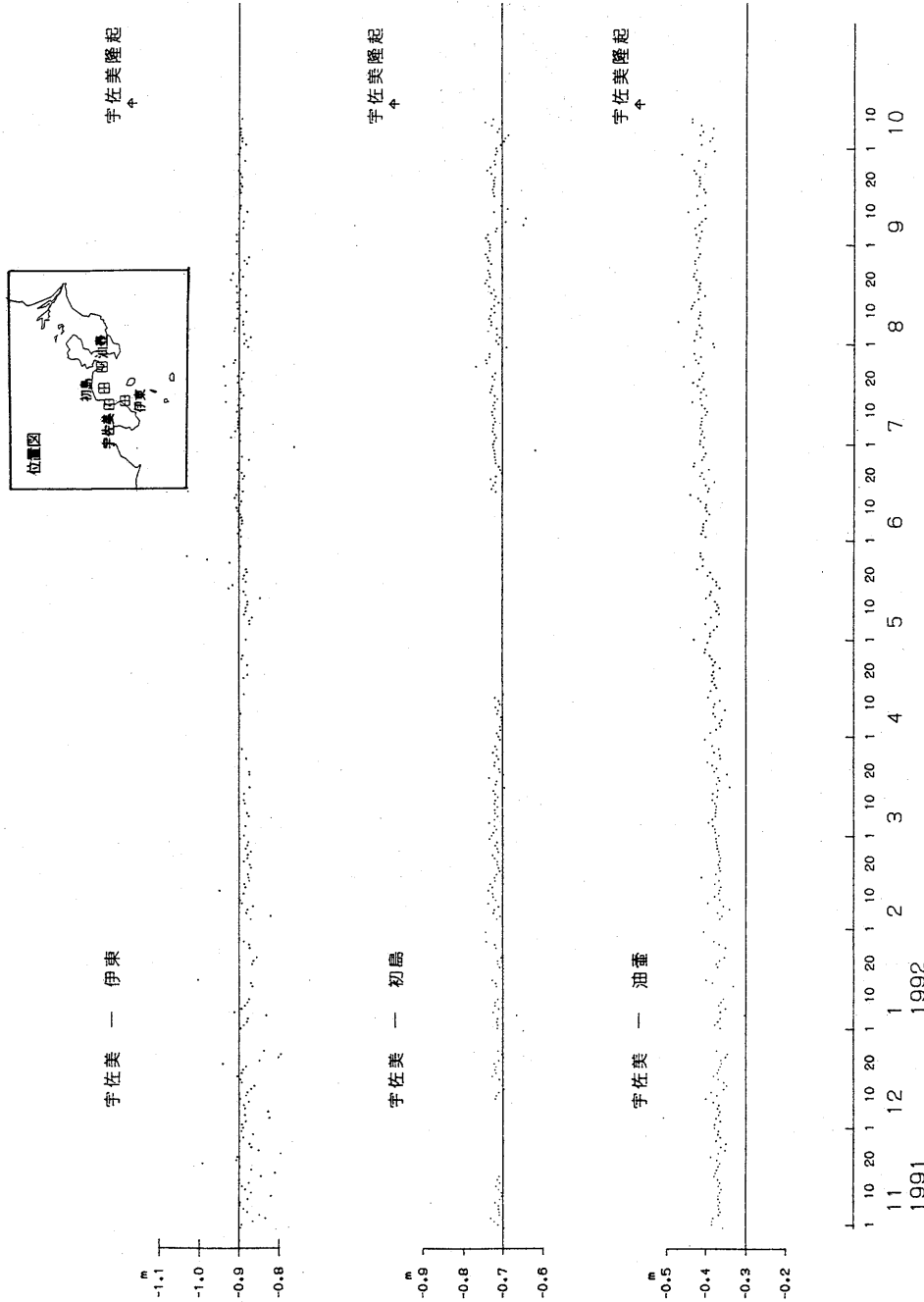
Fig. 2 Level changes along the route from Atami to Kawazu.



上段：観測値および近似曲線
下段：年周変化を補正した値

第3図 伊東・油壺・初島・真鶴各験潮場間の月平均潮位差

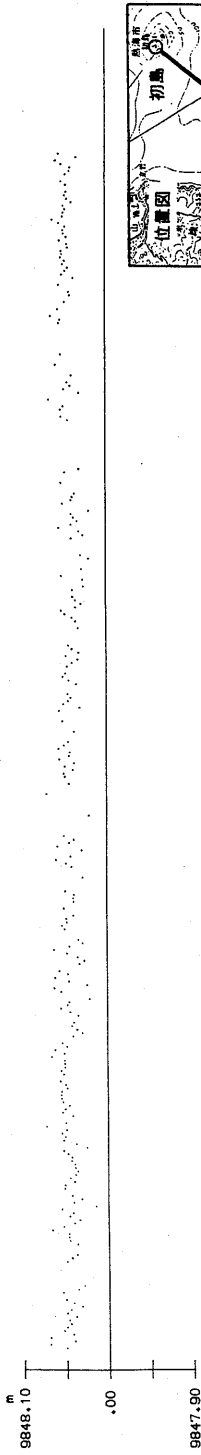
Fig. 3 Differences in monthly mean sea level between Ito, Aburatsubo, Hatushima and manazuru tidal stations.



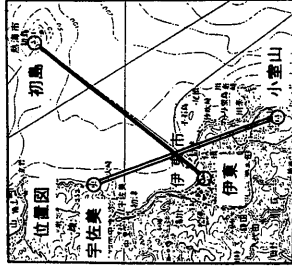
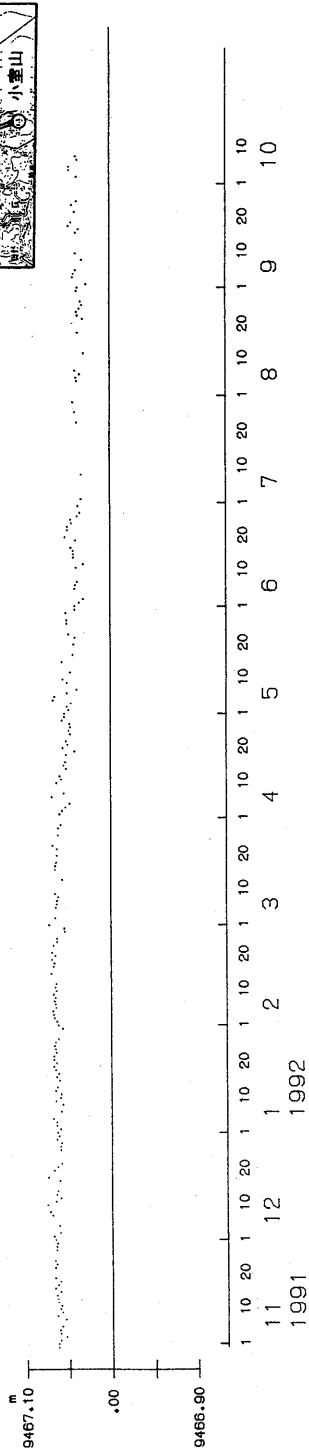
第4図 伊東市周辺における日平均潮位差連続観測結果

Fig. 4 Differences in daily mean sea level between tidal station pairs in the Ito region.

初島 - 伊東 (GPS)



小室山 - 宇佐美 (EDM)



第5図 GPS, 光波測距儀による伊東市周辺の距離連続観測結果 (日平均)

Fig. 5 Continuous distance observation with GPS and EDM around Ito City (daily mean).